

所内研修② 所長講話①「求められている21世紀型能力」

○島尻教育研究所では、年3回の所長講話を実施しております。上原雅志所長は、毎回研究員に向かい合い、語りかけるように問題提起を行います。研究員は講話を聞くのみではなく、各自の体験や経験を通して自分の意見を返し、対話的な手法で研修を進めております。

今回のテーマは「求められる21世紀型能力」。あと10～20年後には今ある職業の約半数がIT化されると予想される時代に今後我々教師は子どもたちにどんな力をつけてあげることが求められるのでしょうか。研究員は各自の実践研究を進めながら所内研修で教師としての実践力を身につけていきます。



研究員と向かい合い対話的方法で所長講話を実施

1. 研修名 所長講話① 上原雅志島尻教育研究所所長「求められる21世紀型能力」
2. 趣 旨 所長講話をとおして、教員としての資質の向上に資する。
3. 期 日 平成28年4月14日(木)10:00～11:30 2F大会議室
4. 研修内容

(1) 社会の変化

- ① 社会の変化と求められる人材像
- ② 日本の強みと新しい社会の姿
- ③ 日本の近年の教育政策と社会の変化
- ④ 教育課程編成への示唆

- ③ 思考力
- ④ 実践力

- (3) 「21世紀型能力」と日本の教育課程  
※資料「言語活動の充実について」

(2) 21世紀型能力

- ① 教育課程の編成原理と「21世紀型能力」
- ② 基礎力



所長講話を聞き、『求められている21世紀型能力』はどのようなものなのかを考えながらの研修でした。時代や社会が求めている今日の課題を、学級の子も達にどう教えていくのか。次の世代の子も達にどうつなげていくのか。これまで以上に考えさせられました。

そして、私自身の学級経営の中で21世紀型能力をどのように身につけさせていくのか。実践してきた内容を振り返りながら、今後の願望を抱くことができました。知識・技能の習得「何を知っているか」から実践的な「何ができるか」に、ものの見方や考え方をすり替えていくことが大切だと気づきました。

(糸満市立兼城小学校 上原司)

所長が講話の冒頭で話された「なぜ、今、あえて変化(すること)が求められているのか」を念頭に置きながら講話を聞きました。これからの教育は、「何を知っているか」から「何ができるか」へと重点を移しながら、教育の内容、方法、評価の改善をはかっていかなければなりません。その際には、所長が最後に話された「単語一つ一つを自分に置き換えることが大事」だということを考えながら実践していきたいです。

(八重瀬町立白川小学校 山城昌義)

現在の世の中は大きく変化しているのに、これから先は更に大きな変化があるとの予想に驚きました。社会の変化に合わせて教育も変えていかなければならないということでした。また所長は文章を読み、言葉を一つずつ読み解きながら解説し、私たちに「どうですか、実践につなげていますか、どうすればいいですか」と問いかけながら講話をして下さりました。その都度、自分自身にふり振り返り反省しました。「21世紀型能力」とは他者と関わりながら情報を的確に入手し、分析・統合し、新しいアイデアを生み出す資質・能力だとわかりました。私は「道徳」を研究していますので、道徳はもちろんのこと、いろいろな場面において、そのような資質・能力を伸ばしていけるような手立てを講じていきたいと思ひます。

(南城市立佐敷小学校 久保田力也)

所長講話では「求められている21世紀型能力」がテーマでした。社会の変化に対応する人間が世の中には求められている。中でも「他者と関わりながら、情報を的確に入手し・分析・統合し、新しいアイデアを生み出す資質・能力」が一人一人に求められている。学習指導要領も時代の変化に対応し、「知・徳・体をバランスよく育むとともに、基礎的・基本的な知識・技能・判断力等及び学習意欲を重視し、学校教育においては、これらを調和的に育むことが必要である」と規定されている。その上で、「何ができ、何をどのように学ぶか」を一人一人が身につけ、新しい時代に対応する資質と能力が必要になることが分かった。研究テーマと関連する講話でしたので、活かしたいです。ありがとうございました。

(糸満市立西崎中学校 下地秀隆)

